

第3回小美玉市まち・ひと・しごと創生有識者会議 次第

日時：令和6年10月29日（火）午前10時開会
会場：小美玉市役所 本庁2階 第2・第3会議室

1 開 会

2 挨拶

3 協議事項

(1) 小美玉市人口ビジョン 調査結果と課題の整理について

(2) 小美玉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 計画体系と取組内容について

4 その他

5 閉 会

配布資料

資料1：小美玉市人口ビジョン・総合戦略に係るアンケート調査結果

資料2：小美玉市人口ビジョン 調査結果と課題の整理

資料3：第3期小美玉市まち・ひと・しごと創生総合戦略

ダイヤモンドシティ・プロジェクト 計画体系と取組内容（案）

小美玉市人口ビジョン・総合戦略に係るアンケート 調査結果

I. 調査概要

1. 各種調査概要一覧

- (1) 調査の目的
- (2) 調査方法
- (3) 配布・回収状況

2. アンケート種別の調査項目一覧表

- (1) 市民
- (2) 高校生等

II. 単純集計

- 1. 結果の概要
- 2. 単純集計結果
 - (1) 市民
 - (2) 高校生等

II. 単純集計は前回会議で提出済のため、本資料では省略しています。

III. クロス集計

1. 結果の概要

- (1) 市民
- (2) 高校生等

2. クロス集計結果

- (1) 市民
- (2) 高校生等

本資料では省略しています。

IV. 自由記述回答

1. 結果の概要

- (1) 市民
- (2) 高校生等

I. 調査概要

1. 各種調査概要一覧

(1) 調査の目的

人口ビジョン及び総合戦略の改定にあたり、市民の意識を調査するため、アンケートを行いました。

(2) 調査方法

	①市民（保護者）	②市民（18歳～39歳）	①高校生世代	②中央高校生
調査対象者	市立小中学校に通う児童生徒の保護者（2,323世帯）	18歳～39歳の市民（市内小中学校に通う児童生徒の保護者を除いた2,000人を無作為抽出）	市内在住の高校生世代（無作為抽出500人）	茨城県立中央高等学校に通う生徒571人（1年生191人、2年生192人、3年生188人）
調査方法	学校で使用している連絡用アプリを活用し、WEB上で回答する	調査の案内と二次元バーコードを送付し、WEB上で回答する	調査の案内と二次元バーコードを送付し、WEB上で回答する	学校で調査の案内と二次元バーコードを配布し、WEB上で回答する
調査期間	令和6年6月28日（金）～令和6年7月15日（月）			

(3) 配布・回収状況

	①市民（保護者）	②市民（18歳～39歳）	①高校生世代	②中央高校生
配布数	2,323票	2,000票	500票	571票
有効回収数	1,202票	580票	154票	490票
有効回収率	51.7%	29.0%	30.8%	85.8%

【参考値】

市民	計：	（配布数）4,323	（有効回収数）1,782	（有効回収率）41.2%
高校生等	計：	（配布数）1,071	（有効回収数）644	（有効回収率）60.1%
	合計：	（配布数）5,394	（有効回収数）2,426	（有効回収率）45.0%

2. アンケート種別の調査項目一覧表

(1) 市民

●：全員回答、◎：限定回答

設問内容	回答形式	①市民 (保護者)	②市民 (18歳~39歳)
あなたの性別を教えてください。	SA	●	●
あなたの年齢（R6.6.1時点）を教えてください。答えたくない場合は0を入力してください。	NA	●	●
あなたは現在、小美玉市に住んでいますか。	SA	●	
【現在小美玉市に住んでいる方】あなたは生まれてからずっと小美玉市（合併前の小川町・美野里町・玉里村を含む）に住んでいますか。	SA	◎	●
【生まれてからずっと小美玉市に住んでいない方】小美玉市に引っ越してきた理由は何ですか。最もあてはまるものを1つだけ選んでください。	SA	◎	
あなたは結婚していますか。	SA		●
【現在結婚していない方】将来、結婚したいと思いますか。	SA		◎
あなたが就職先を決める際に、重要だと思うものは何ですか。	MA	●	●
小美玉市内で就労してもらうために、必要だと思うことは何ですか。	MA	●	●
【現在小美玉市に住んでいる方】これからも小美玉市に住み続けたいですか。	SA	◎	●
【「市外に引っ越したい」を選んだ方】その理由として近いものは何ですか。	MA	◎	◎
【「市外に引っ越したい」を選んだ方】引っ越し先として希望する市区町村はありますか。	SA	◎	◎
【引っ越し先として希望する市区町村がある方】引っ越し先として希望する市区町村名を教えてください。市区町村まで決まっていない場合は、都道府県名を教えてください。	FA	◎	◎
【現在小美玉市に住んでいる方】小美玉市で子育てをしていきたいと思いませんか。	SA	◎	●
【現在小美玉市に住んでいる方】小美玉市の子育て環境・サービスについて、充実していると思いませんか。	-	◎	●
子育て費用の支援など経済的支援	SA	●	●
保育サービス（延長・休日・一時預かり・病児保育等）	SA	●	●
子どもの安全の確保（防災・防犯・交通安全など）	SA	●	●
小児科等の医療機関	SA	●	●

設問内容	回答形式	①市民 (保護者)	②市民 (18歳~39歳)
保育所(園)や幼稚園	SA	●	●
小中学校などの学校施設	SA	●	●
妊娠や子育て等に関して相談できる場所・サービス	SA	●	●
公園などの遊び場	SA	●	●
放課後児童対策(放課後児童クラブ等)	SA	●	●
行政からの情報提供	SA	●	●
小美玉市に愛着を持っていますか。	SA	●	●
最後に、小美玉市へのご意見、ご要望がありましたら、自由にご記入ください。	FA	●	●

回答形式中、SAは単数回答、MAは複数回答、NAは数量回答、FAは自由回答を示します。

(2) 高校生等

●：全員回答、◎：限定回答

設問内容	回答形式	①高校生 世代	②中央 高校生
【確認事項】あなたは、茨城県立中央高校の生徒ですか。	SA	●	
あなたの性別を教えてください。	SA	●*	●
あなたは高校生ですか。	SA	●*	
あなたは何年生ですか。	SA		●
【高校生の方】現時点での進路の希望について教えてください。	SA	◎*	●
将来希望する職業を教えてください。 ①高校生世代補足：既に就職している方も、希望の職業を教えてください。	MA	●*	●
あなたが就職先を決める際に、重要だと思うものは何ですか。	MA	●*	●
希望するお住まいについて教えてください。将来はどこに住みたいです か。	SA	●*	●
【(①高校生世代)「小美玉市以外に住みたい」方/(②中央高校生)茨城県内の他の市町村に住みたい方】住みたい市町村名や都道府県名を教えてください。まだ決まっていない場合は、「まだ決まっていない」と回答してください。	FA	◎*	◎
【「茨城県外に住みたい」と答えた方】住みたい市町村名や都道府県名を教えてください。まだ決まっていない場合は、「まだ決まっていない」と回答してください。	FA		◎
希望する勤務地について教えてください。将来はどこで働きたいですか。	SA	●*	●

設問内容	回答形式	①高校生世代	②中央高校生
【(①高校生世代)「小美玉市以外で働きたい」方/ (②中央高校生) 茨城県内の他の市町村で働きたい】働きたい市町村名や都道府県名を教えてください。まだ決まっていない場合は、「まだ決まっていない」と回答してください。	FA	◎*	
【「茨城県外で働きたい」と答えた方】働きたい市町村名や都道府県名を教えてください。まだ決まっていない場合は、「まだ決まっていない」と回答してください。	FA		◎
あなたは結婚したいと思いますか。	SA	●*	●
【結婚したいと思う方】結婚を希望する年齢を教えてください。	SA	◎*	◎
あなたは小美玉市に、愛着を持っていますか。	SA	●*	●
最後に、小美玉市へのご意見、ご要望がありましたら、自由にご記入ください。	FA	●*	●

回答形式中、SAは単数回答、MAは複数回答、NAは数量回答、FAは自由回答を示します。

※「中央高校の生徒である」と回答した人を除く

II. 単純集計

Ⅲ. クロス集計

1. 結果の概要

アンケート調査結果について、市民（①保護者、②18歳～39歳）と高校生等（①高校生世代、②中央高校生）でそれぞれクロス集計を行い、その傾向を比較しました。なお、アンケートごとに対象者の区分が異なることから、アンケートによっては特定の世代または性別の意見が強く反映される場合があります。

アンケートの区分は以下のとおりです。

市民①（保護者）：市内小中学校に通う児童生徒の保護者

市民②（18歳～39歳）：18歳～39歳の市民（市内小中学校に通う児童生徒の保護者を除く）

高校生等①（高校生世代）：市内在住の高校生世代

高校生等②（中央高校生）：茨城県立中央高等学校に通う生徒

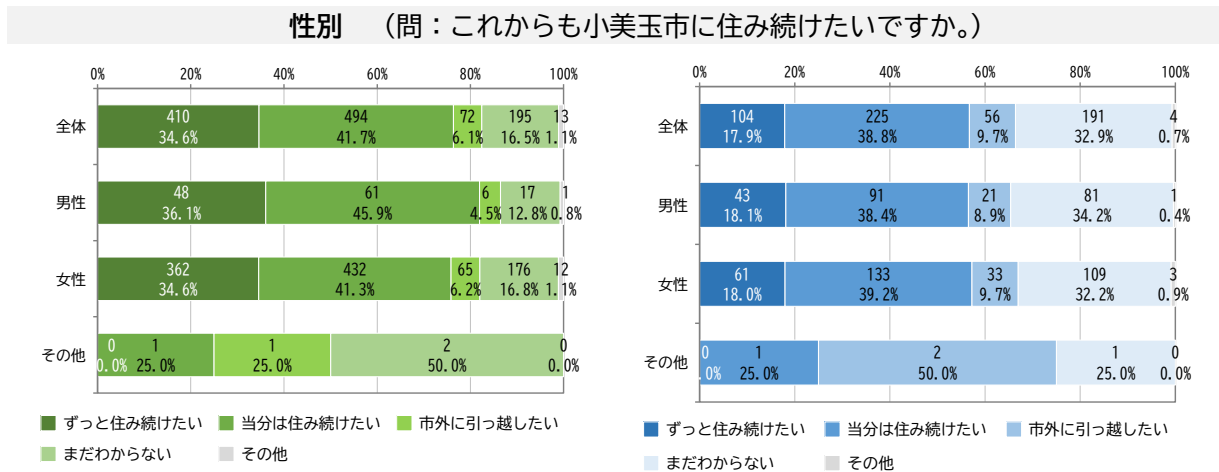
※各グラフの右下に設問の対象者数を（）内に示していますが、グラフの項目は抜粋したものであるため、各項目の総数と異なる場合があります。

(1) 市民

定住に関すること

a. これからも小美玉市に住み続けたいですか。（○は1つ）

①保護者<市内在住のみ>：問7、②18歳～39歳：問8

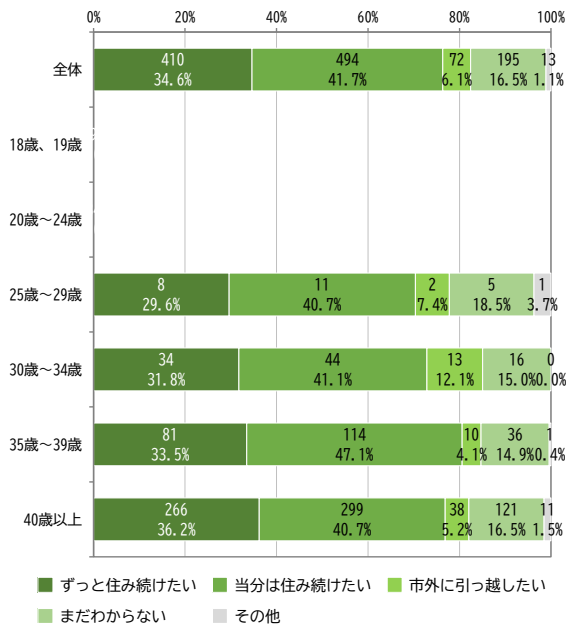


①保護者<市内在住のみ> (1,184)

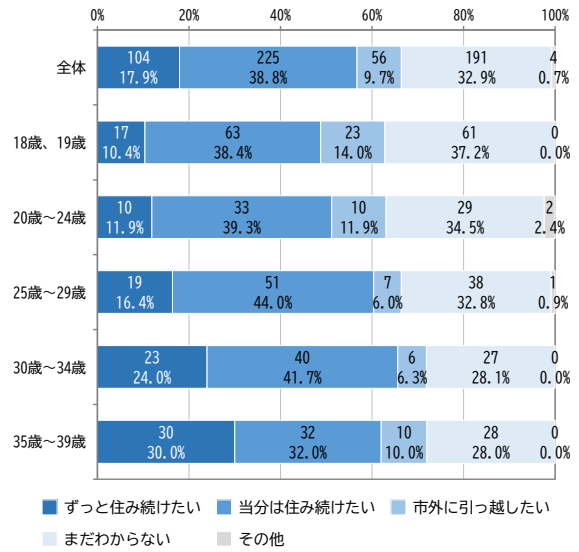
②18歳～39歳 (580)

・性別にみると、男女での大きな回答の差は見られなかった。

年齢別 (問：これからも小美玉市に住み続けたいですか。)



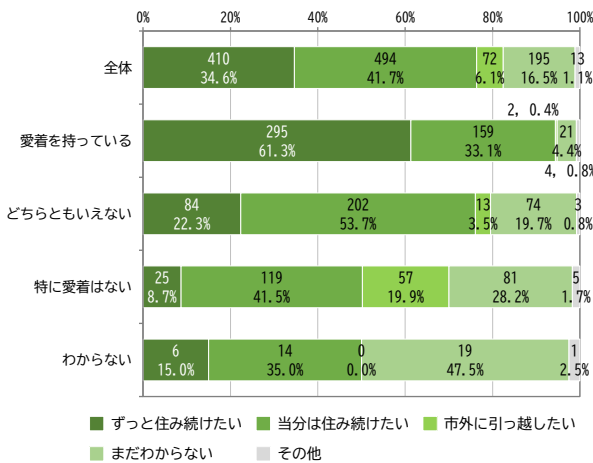
①保護者<市内在住のみ> (1,184)



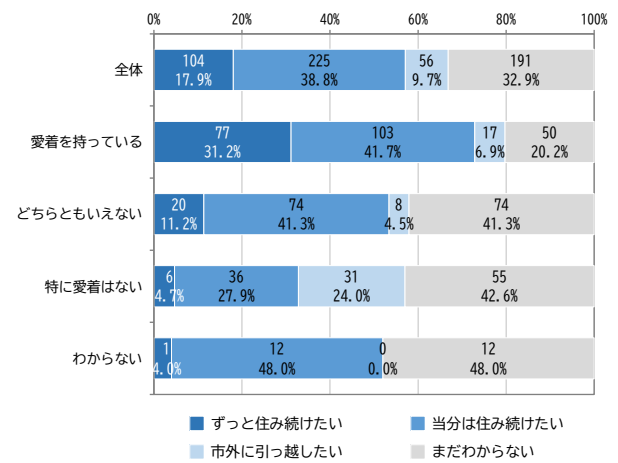
②18歳～39歳 (580)

- ・年齢別にみると、「ずっと住み続けたい」「当分は住み続けたい」と回答した人の割合の合計は、①保護者（市内在住のみ）では「35歳～39歳」が、②18歳～39歳では「30歳～34歳」が最も多くなっている。
- ・「市外に引っ越したい」と回答した人の割合は、①保護者（市内在住のみ）では「30歳～34歳」が、②18歳～39歳では「18歳、19歳」が最も多くなっている。

小美玉市への愛着の有無別 (問：これからも小美玉市に住み続けたいですか。)



①保護者<市内在住のみ> (1,184)



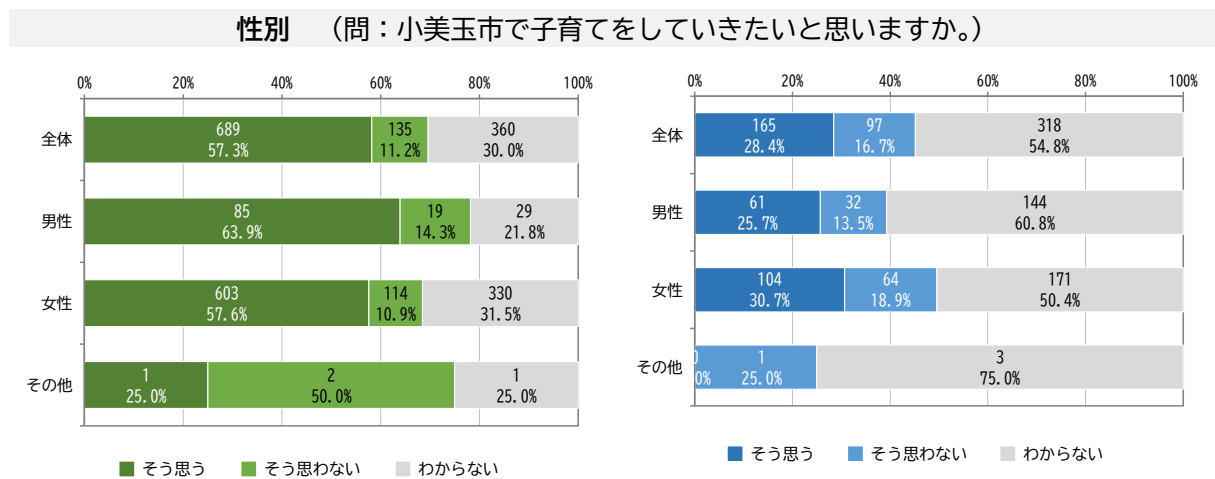
②18歳～39歳 (580)

- ・①保護者（市内在住のみ）、②18歳～39歳ともに、「(小美玉市に) 愛着を持っている」と回答した人は、定住意向が強くなっている。

結婚・子育てに関すること

b. 小美玉市で子育てをしていきたいと思いませんか。(〇は1つ)

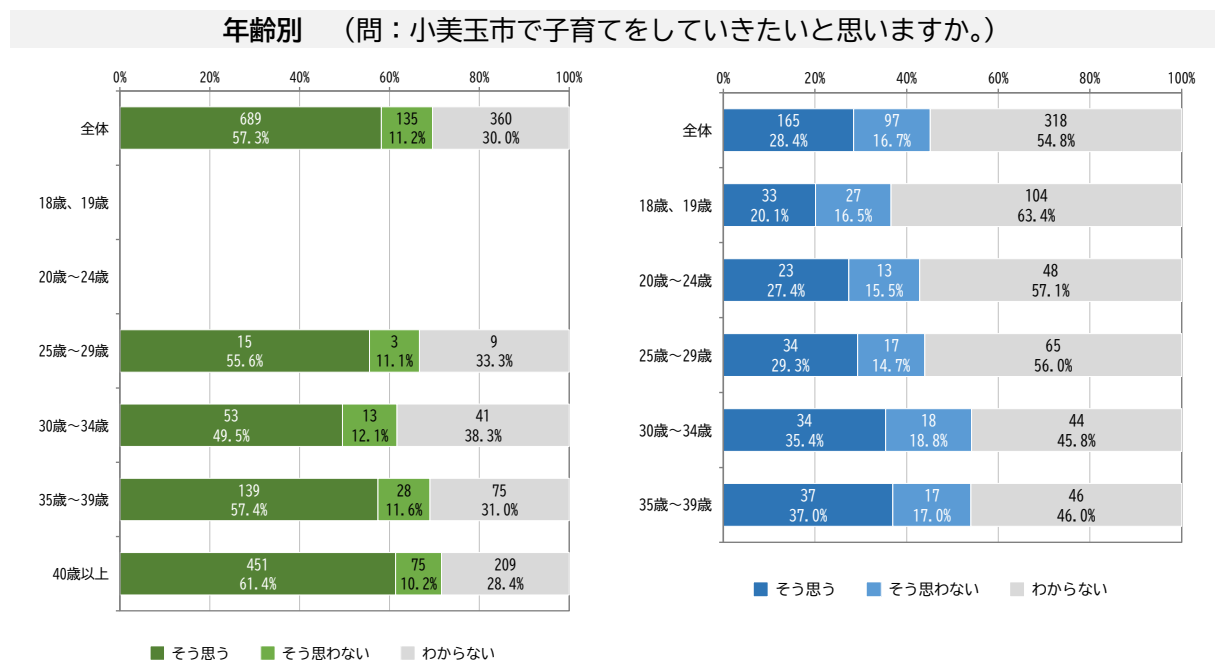
①保護者<市内在住のみ>：問10、②18歳～39歳：問11



①保護者<市内在住のみ> (1,184)

②18歳～39歳 (580)

- 性別にみると、「そう思う (子育てをしていきたいと思う)」と回答した人の割合は、①保護者 (市内在住のみ) では「男性」が、②18歳～39歳では「女性」が多くなっている。ただし、「そう思わない (子育てをしていきたいと思わない)」と回答した人の割合も同様で、①保護者 (市内在住のみ) では「男性」が、②18歳～39歳では「女性」が多くなっている。

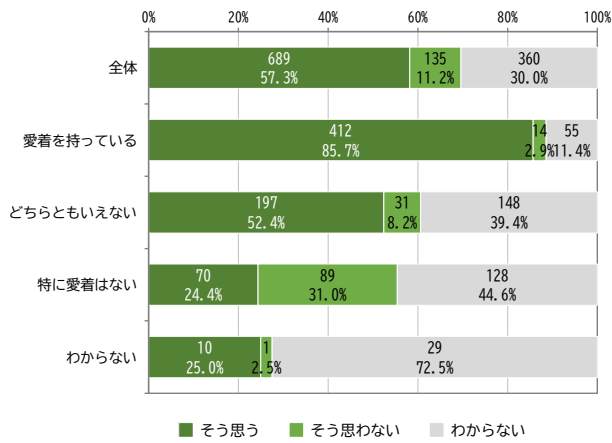


①保護者<市内在住のみ> (1,184)

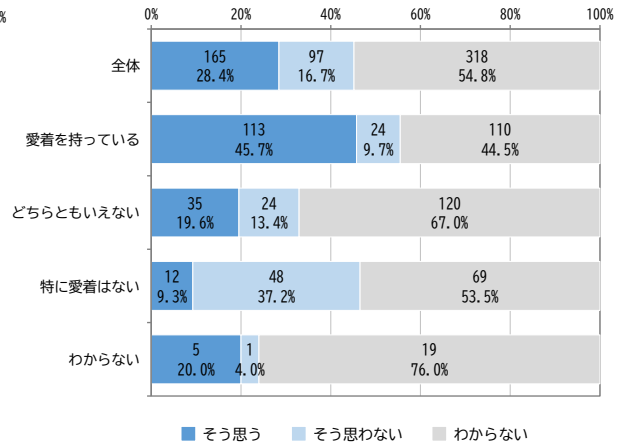
②18歳～39歳 (580)

- 年齢別にみると、「そう思う (子育てをしていきたいと思う)」と回答した人の割合は、①保護者 (市内在住のみ) では「40歳以上」が、②18歳～39歳では「35歳～39歳」が多くなっている。

小美玉市への愛着の有無別 (問：小美玉市で子育てをしていきたいと思えますか。)



①保護者<市内在住のみ> (1,184)



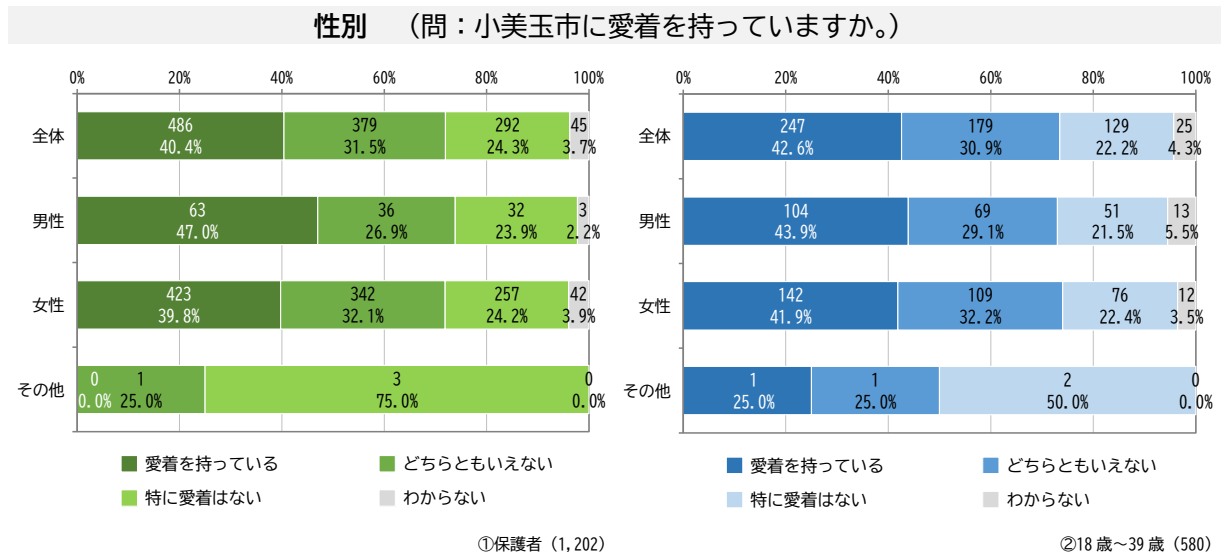
②18歳~39歳 (580)

- ・小美玉市への愛着の有無別にみると、①保護者<市内在住のみ>、②18歳~39歳ともに、「(小美玉市に) 愛着を持っている」と回答した人は、本市での子育てを希望する意向が強くなっている。
- ・①保護者<市内在住のみ>で「(小美玉市に) 愛着を持っている」と回答した人は、本市での子育てを希望する意向が特に強くなっている。

愛着に関すること

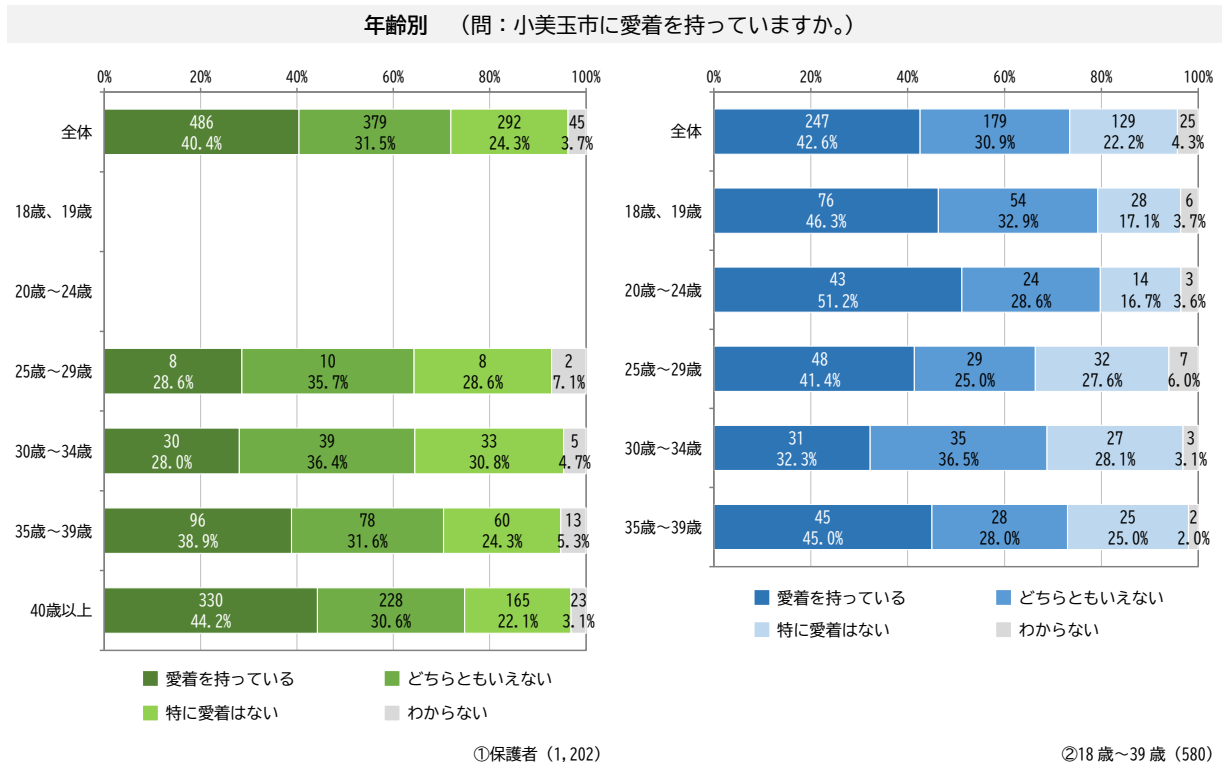
c. 小美玉市に愛着を持っていますか。(〇は1つ)

①保護者：問12、②18歳～39歳：問13



- 性別にみると、①保護者※では、「(小美玉市に) 愛着を持っている」と回答した割合は「男性」の方が多くなっている。②18歳～39歳では、男女での大きな回答の差は見られなかった。

※回答者には小美玉市以外に居住している者も含まれている。



- 年齢別にみると、①保護者※、②18歳～39歳ともに、「30歳～34歳」は「(小美玉市に) 愛着を持っている」と回答した割合が最も少なくなっている。
- ②18歳～39歳では、「(小美玉市に) 愛着を持っている」と回答した割合は「20歳～24歳」が最も多くなっている。

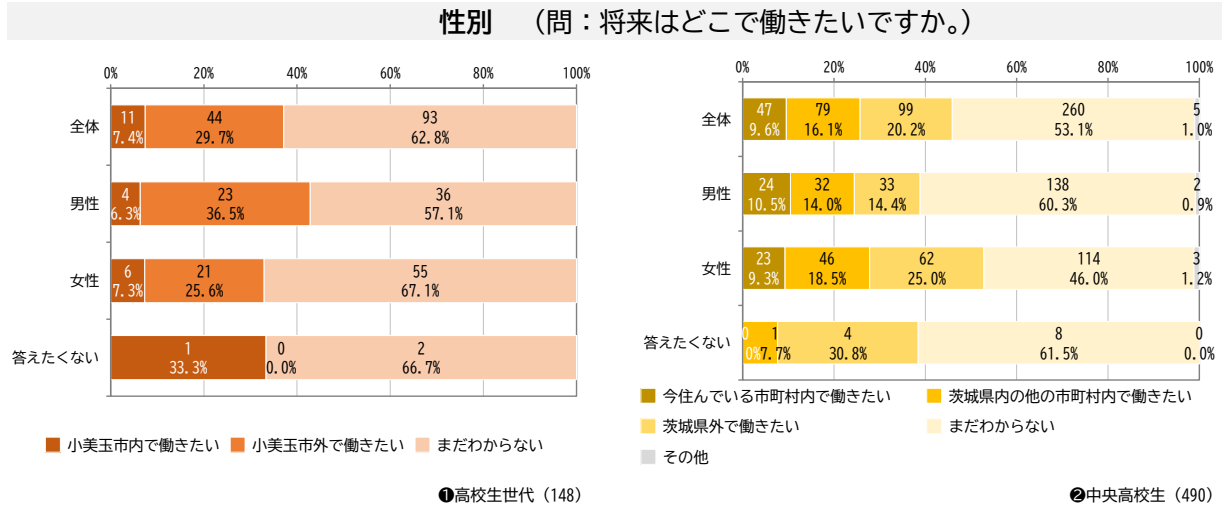
※回答者には小美玉市以外に居住している者も含まれている。

(2) 高校生等

職業に関すること

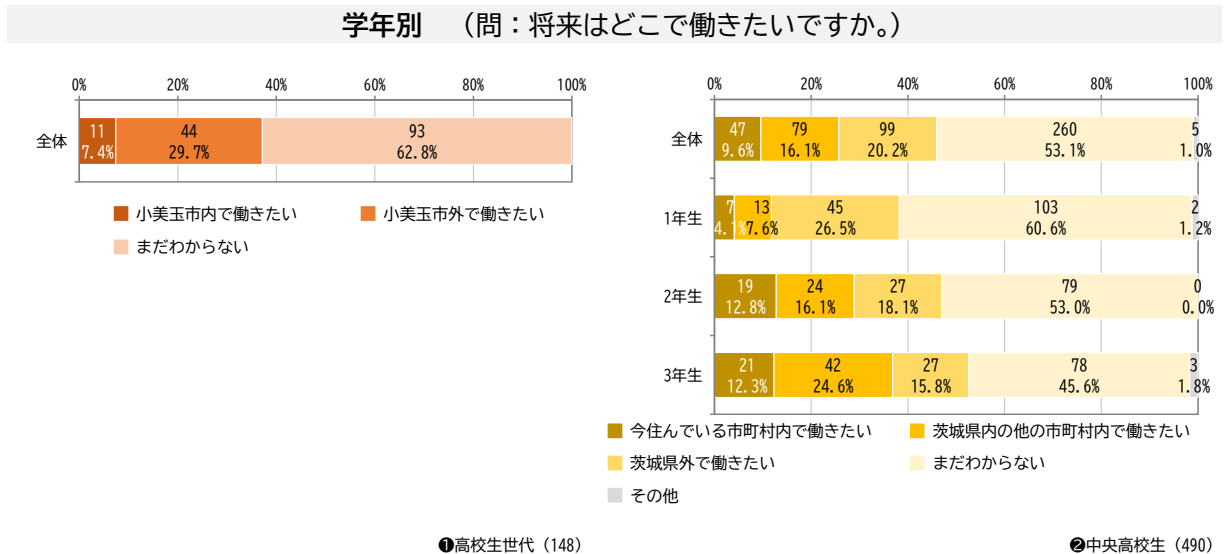
a. 希望する勤務地について教えてください。将来はどこで働きたいですか。(〇は1つ)

①高校生世代：問7、②中央高校生：問8



- ・性別にみると、①高校生世代では、「男性」は「小美玉市外で働きたい」意向が強くなっている。
- ・②中央高校生※では、「女性」は「茨城県外で働きたい」意向が強くなっている。

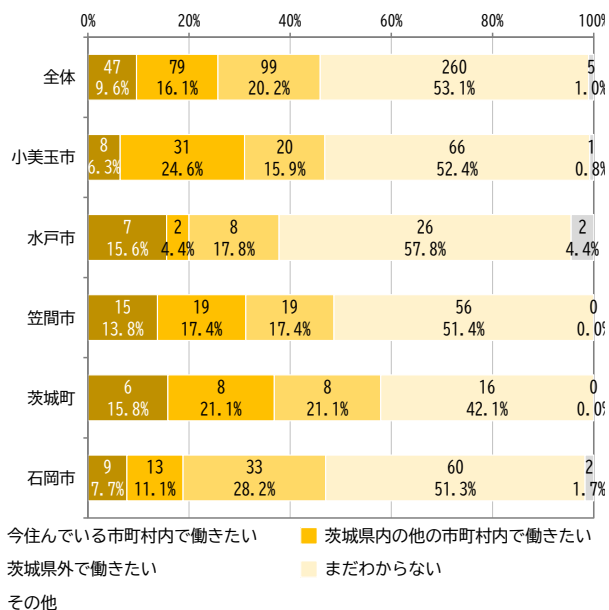
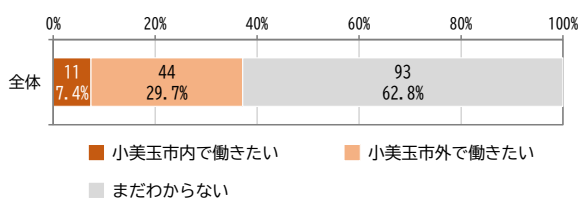
※回答者には小美玉市以外に居住している者も含まれている。



- ・学年別にみると、②中央高校生※では、「茨城県外で働きたい」と回答した人の割合は、学年があがるにつれ少なくなっている。

※回答者には小美玉市以外に居住している者も含まれている。

居住市町村別 (問：将来はどこで働きたいですか。)



① 高校生世代 (148)

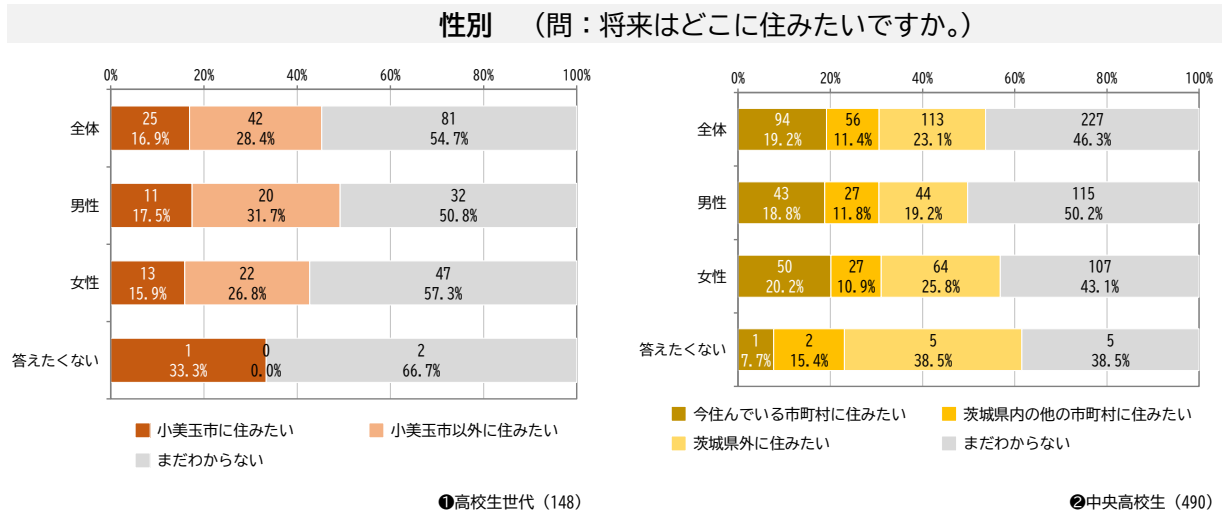
② 中央高校生 (490)

・居住市町村別にみると、②中央高校生では、「今住んでいる市町村内で働きたい」と回答した割合は、近隣4市町と比較すると本市は最も少なくなっている。

定住に関すること

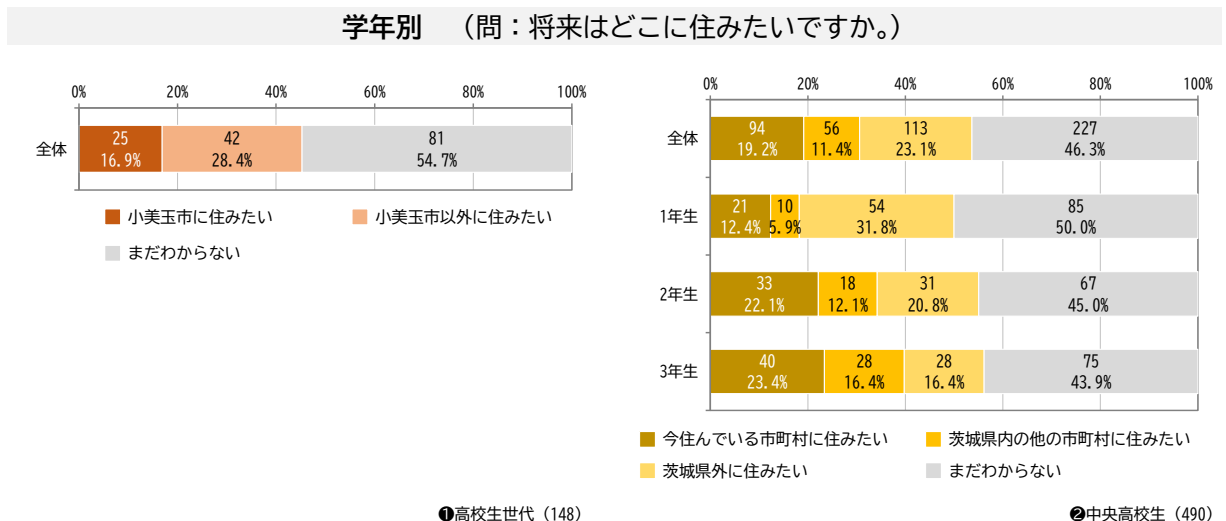
b. 希望するお住まいについて教えてください。将来はどこに住みたいですか。(〇は1つ)

①高校生世代：問 6、②中央高校生：問 7



- 性別にみると、①高校生世代では、「小美玉市外に住みたい」と回答した人の割合は「男性」が多くなっている。ただし、「小美玉市に住みたい」と回答した人の割合も同様で、「男性」が多くなっている。
- ②中央高校生※では、「女性」と「(性別を) 答えたくない」は、「茨城県外に住みたい」意向が強くなっている。

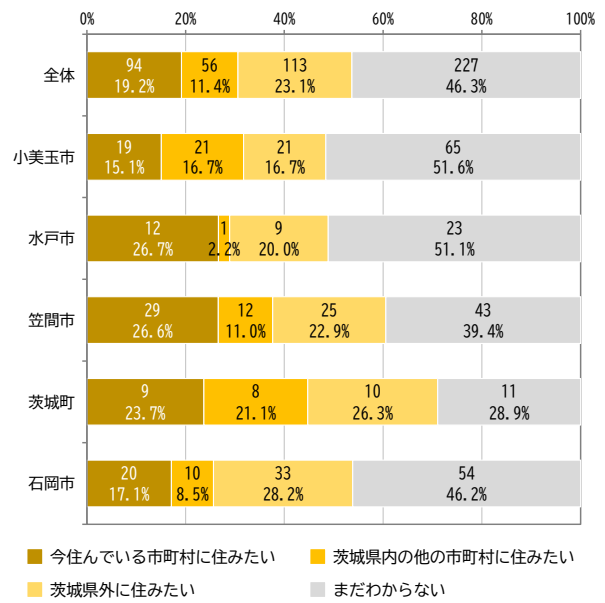
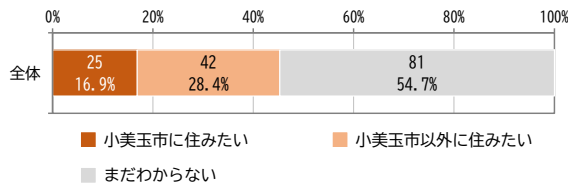
※回答者には小美玉市以外に居住している者も含まれている。



- 学年別にみると、②中央高校生※では、「茨城県外に住みたい」と回答した人の割合は、学年があがるにつれ少なくなっている。

※回答者には小美玉市以外に居住している者も含まれている。

居住市町村別 (問：将来はどこに住みたいですか。)



①高校生世代 (148)

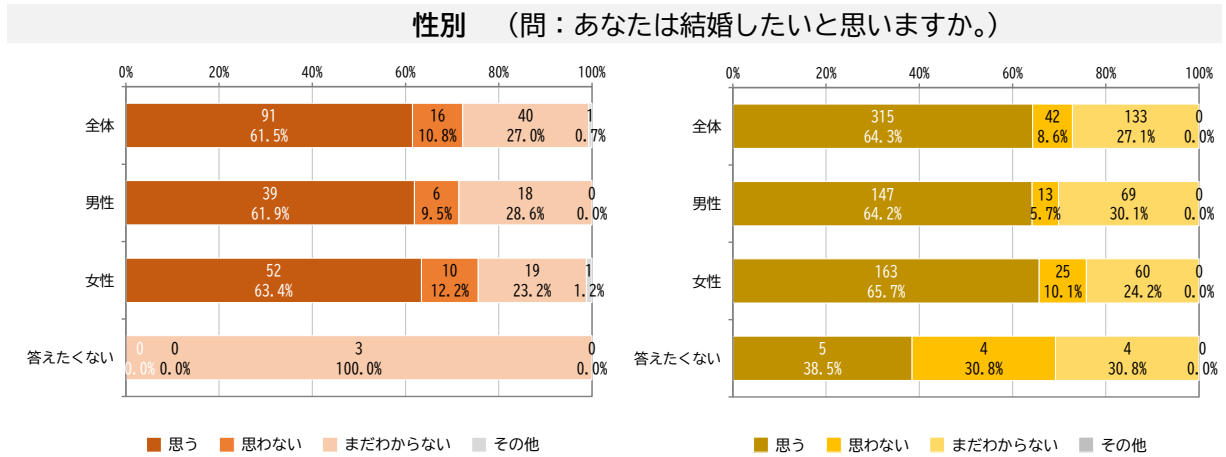
②中央高校生 (490)

- ・居住市町村別にみると、②中央高校生では、「今住んでいる市町村内に住みたい」と回答した割合は、近隣4市町と比較すると本市は最も少なくなっている。

結婚・子育てに関すること

c. あなたは結婚したいと思いますか。(〇は1つ)

①高校生世代：問 8、②中央高校生：問 9

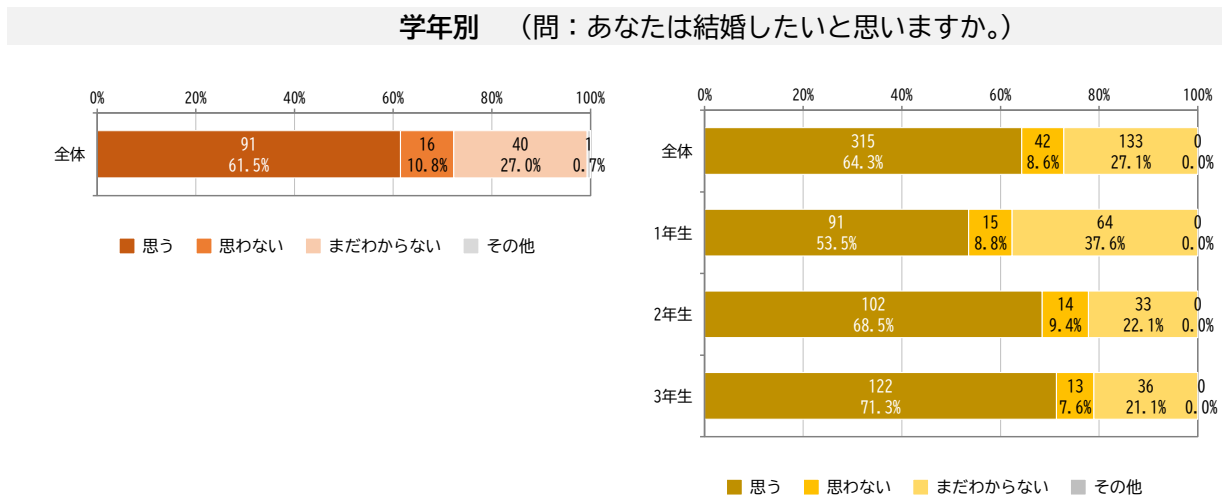


①高校生世代 (148)

②中央高校生 (490)

- ・性別にみると、①高校生世代では、「(結婚したいと) 思わない」と回答した人の割合は「女性」が若干多くなっている。
- ・②中央高校生※では、「(結婚したいと) 思わない」と回答した人の割合は「女性」と「(性別を) 答えたくない」が多くなっている。

※回答者には小美玉市以外に居住している者も含まれている。



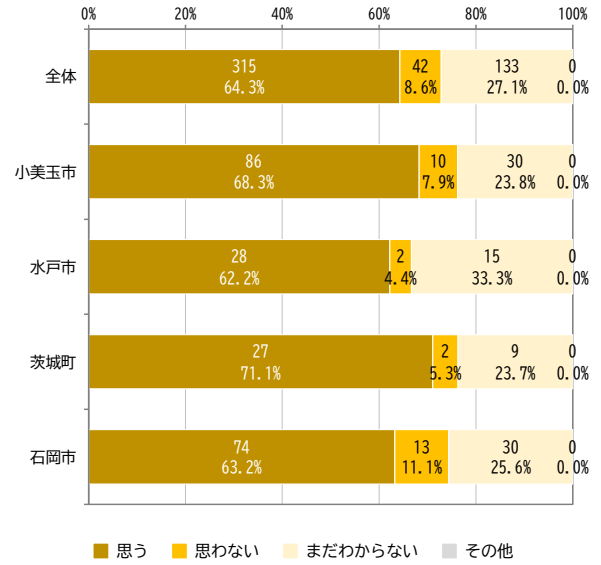
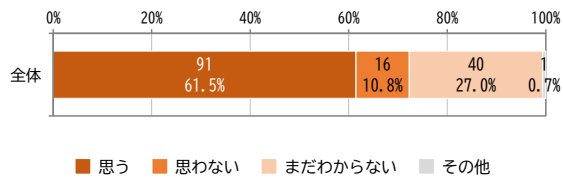
①高校生世代 (148)

②中央高校生 (490)

- ・学年別にみると、②中央高校生※では、結婚意向は学年があがるにつれ高くなっている。

※回答者には小美玉市以外に居住している者も含まれている。

居住市町村別 (問：あなたは結婚したいと思いますか。)



①高校生世代 (148)

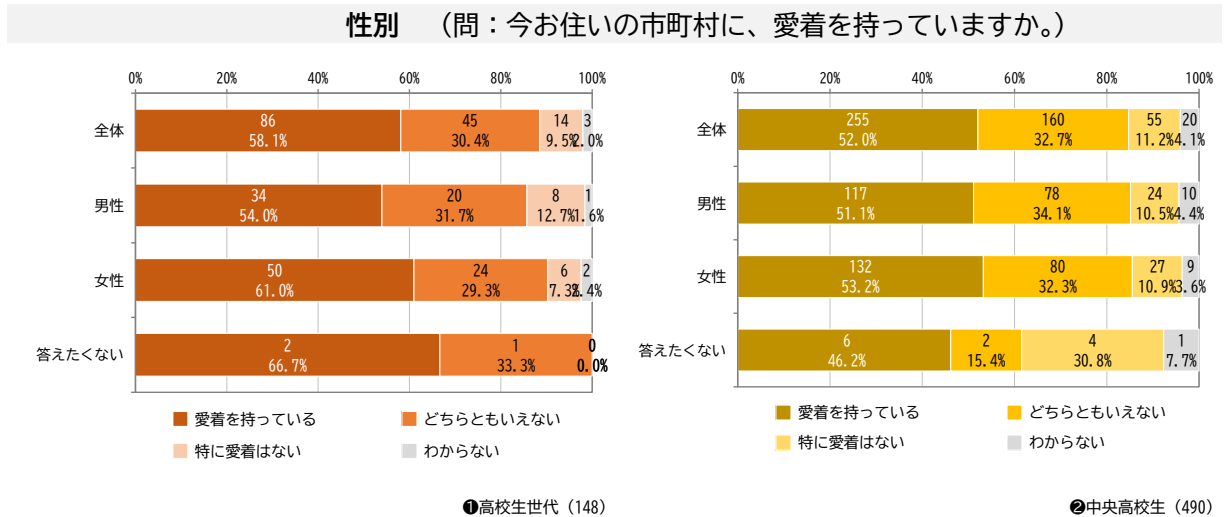
②中央高校生 (490)

- ・居住市町村別にみると、②中央高校生では、「(結婚したいと) 思わない」と回答した人の割合は、近隣4市町と比較すると本市は比較的高くなっている。

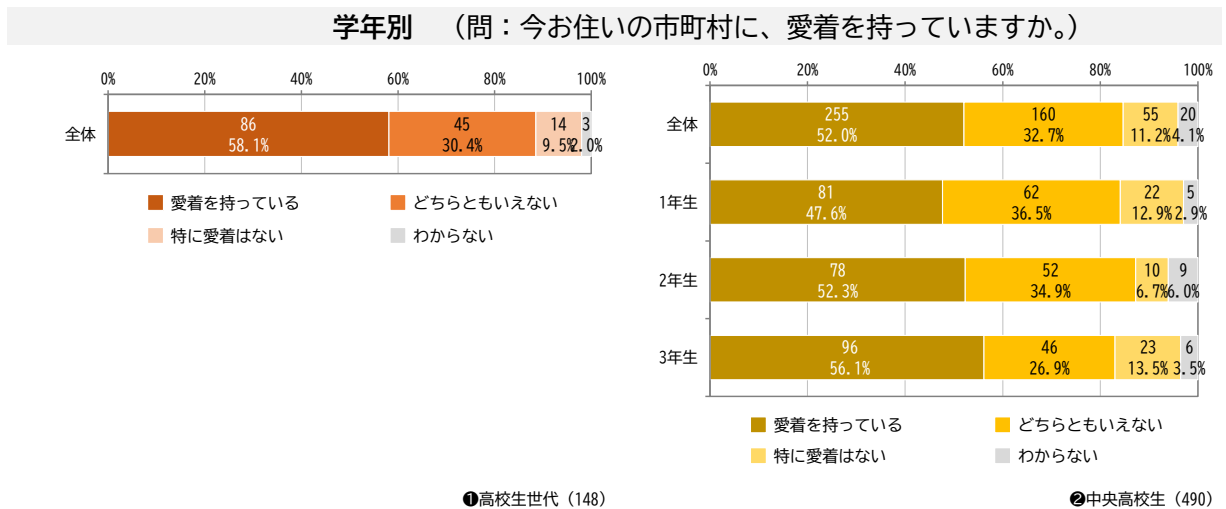
愛着に関すること

d. 今お住いの市町村に、愛着を持っていますか。(〇は1つ)

①高校生世代：問9、②中央高校生：問10



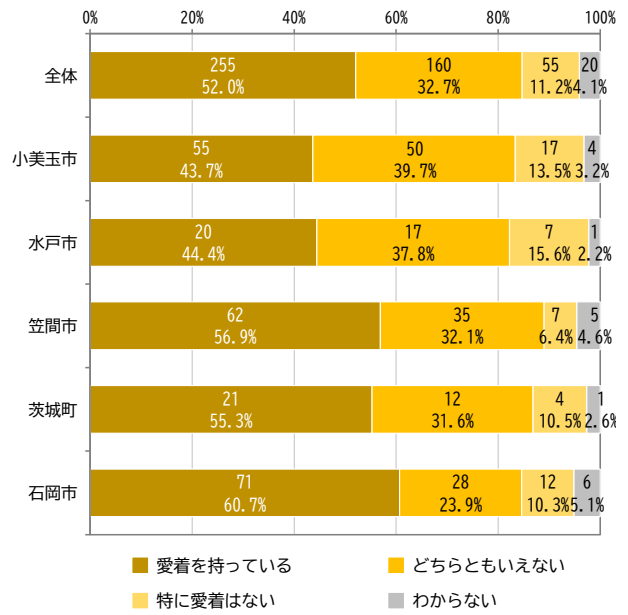
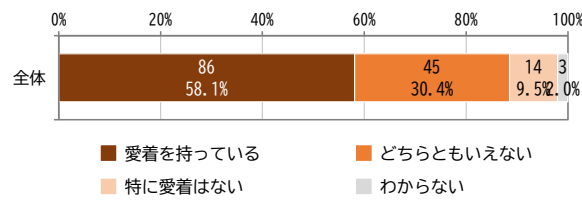
- 性別にみると、①高校生世代では、「小美玉市外に住みたい」と回答した人の割合は「女性」と「(性別を) 答えたくない」が多くなっている。
- ②中央高校生※では、男女での大きな回答の差は見られなかった。



- 学年別にみると、②中央高校生※では、「(今お住いの市町村に) 愛着を持っている」と回答した人の割合は、学年があがるにつれ多くなっている。

※回答者には小美玉市以外に居住している者も含まれている。

居住市町村別 (問：今お住いの市町村に、愛着を持っていますか。)



①高校生世代 (148)

②中央高校生 (490)

- ・居住市町村別にみると、②中央高校生では、「(小美玉市に) 愛着を持っている」と回答した割合は、近隣4市町と比較すると本市は最も少なくなっている。
- ・①高校生世代では、「(小美玉市に) 愛着を持っている」と回答した割合は6割弱となっており、小美玉市に居住している中央高校生(4割強)よりも多くなっている。

2. クロス集計結果

IV. 自由記述回答

1. 結果の概要

(1) 市民

a. ①保護者

小美玉市へのご意見、ご要望を自由に回答していただいたところ、332人から428件の回答が得られました。寄せられた意見は、施設等の要望（商業施設の誘致や公園などの公共施設の整備）に関する事、子育て支援に関する事の順に多くみられました。

①保護者の自由記述回答 意見の分類

分類	件数
施設等（公共施設・民間施設含む）の要望に関する事	152件
子育て支援に関する事	81件
道路環境に関する事	44件
学校教育に関する事	41件
市政への提案・要望に関する事	30件
公共交通に関する事	19件
イベントや地域振興等に関する事	9件
地域の環境に関する事	6件
経済的・物的支援に関する事	6件
情報発信に関する事	5件
その他	35件

b. ②18歳～39歳

小美玉市へのご意見、ご要望を自由に回答していただいたところ、195人から232件の回答が得られました。寄せられた意見は、施設等の要望（商業施設の誘致や公園などの公共施設の整備）に関する事、子育て支援に関する事の順に多くみられました。

②18歳～39歳の自由記述回答 意見の分類

分類	件数
施設等（公共施設・民間施設含む）の要望に関する事	69件
子育て支援に関する事	38件

市政への提案・要望に関すること	24件
公共交通に関すること	21件
道路環境に関すること	20件
イベントや地域振興等に関すること	15件
情報発信に関すること	11件
経済的・物的支援に関すること	7件
その他	26件

(2) 高校生等

a. ①高校生世代

小美玉市へのご意見、ご要望を自由に回答していただいたところ、44人から46件の回答が得られました。寄せられた意見は、施設等の要望（商業施設の誘致や図書館などの公共施設の整備）に関すること、公共交通に関することの順に多くみられました。

①高校生世代の自由記述回答 意見の分類

分類	件数
施設等（公共施設・民間施設含む）の要望に関すること	19件
公共交通に関すること	6件
イベントや地域振興等に関すること	5件
経済的・物的支援に関すること	4件
道路環境に関すること	3件
その他	9件

b. ②中央高校生

小美玉市へのご意見、ご要望を自由に回答していただいたところ、74人から76件の回答が得られました。寄せられた意見は、施設等の要望（商業施設の誘致や遊び場の整備）に関すること、公共交通に関することの順に多くみられました。

②中央高校生の自由記述回答 意見の分類

分類	件数
施設等（公共施設・民間施設含む）の要望に関すること	21件
公共交通に関すること	18件
小美玉市のいいところに関すること	14件

地域の環境に関すること	8件
道路環境に関すること	7件
その他	8件

小美玉市人口ビジョン 調査結果と課題の整理

目 次

1. 人口ビジョンについて	
(1)小美玉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(改訂版)の背景と趣旨	
(2)人口ビジョンの位置づけ	
(3)人口ビジョンの期間	
(4)国のまち・ひと・しごと創生長期ビジョンの概要	
2. 人口の現状分析	
(1)人口動向分析	第1回会議
1)総人口・人口構成の分析	
2)人口動態の分析	
3)婚姻・出生の分析	
4)地域間の移動の分析	
5)産業別人口の分析	
(2)将来人口推計	
1) 将来人口推計の分析	
2) 将来推計人口の分析(年齢別・地域別人口)	
3. 小美玉市人口ビジョンの検証	
(1)財政における人口変化の影響の分析	
(2)商業施設等の民間施設への影響の分析	第2回会議
(3)地域の産業における人口減少の影響の分析	
4. 人口の変化が地域の将来に与える影響	
(1)国勢調査との比較による検証	
(2)国勢調査との比較による検証	
(3)国勢調査との比較による検証	
(4)国勢調査との比較による検証	
5. 小美玉市人口ビジョン	1
(1)将来展望に必要な調査・分析	1
(2)小美玉市人口ビジョン検討における課題の整理	4
(3)目指すべき将来の方向	7
(4)人口ビジョン	8

第3回会議

第1回会議

第4回会議

第2回会議

5. 小美玉市人口ビジョン(人口の将来展望)

(1) 将来展望に必要な調査・分析

① 調査の目的

人口ビジョン及び総合戦略の改定にあたり、市民の意識を調査するため、アンケートを行いました。

② 調査期間

令和6年6月28日（金）～令和6年7月15日（金）

③ 調査方法

	調査対象者	配布数	調査方法
① 市民（保護者）	市立小中学校に通う児童生徒の保護者	2,323 世帯	学校で使用している連絡用アプリを活用し、WEB上で回答する
② 市民 (18～39 歳)	市内小中学校に通う児童生徒の保護者を除いた 18～39 歳の市民	2,000 人	調査の案内と二次元バーコードを送付し、WEB上で回答する
③ 高校生世代	市内在住の高校生世代	500 人	調査の案内と二次元バーコードを送付し、WEB上で回答する
④ 中央高校生	茨城県立中央高等学校に通う生徒	571 人	学校で調査の案内と二次元バーコードを配布し、WEB上で回答する

③ 配布・回収状況

	1. 市民（保護者）	2. 市民 (18～39 歳)	3. 高校生世代	4. 中央高校生
(1) 配布数	2,323 票	2,000 票	500 票	571 票
(2) 有効回収数	1,202 票	580 票	154 票	490 票
(3) 有効回収率	51.7%	29.0%	30.8%	85.8%

④調査結果のまとめ

●結婚・出産・子育てに関すること

<回答結果>

◆結婚を希望…市民は約7割	70.5%
…高校生では約6割	61.5%
◆高校生の結婚希望年齢…25～29歳が約6割	61.5%
◆小美玉市で子育てをしていきたい…市民は約3割	28.4%
…保護者では約6割	58.2%

結婚に対する希望が、前回調査と同程度で、7割程度にとどまっている。また結婚を希望している高校生世代は6割程度となっており、18～39歳の市民よりも割合が少なくなっている。

子育てでは、小美玉市で子育てをしていきたいと回答した市民の割合は3割程度にとどまっているが、保護者世代では、6割近い市民が、引き続き本市で子育てをしていきたいと回答している。

●移住・定住に関すること

<回答結果>

◆小美玉市に住み続けたい…市民は約6割	56.7%
…保護者では約8割	76.3%
…高校生では約2割	16.9%
(市民) 市外に引っ越したい理由…「日常生活が不便」が約6割	58.9%
(高校生) 将来住みたい地域…「まだわからない」が約5割	54.7%

18歳から39歳までの市民では、前回調査と同程度で、6割が小美玉市に住み続けたいと回答している。市外に転出したいと回答した者の理由では、「日常生活の不便さ」が最も多くなった。子育て中の児童生徒の保護者では、8割が小美玉市に住み続けたいと回答している。高校生では、「卒業後も市内に住みたい」と回答した割合は2割にとどまり、前回に比べて1割程度減少した。高校生の5割以上が「まだわからない」と回答しており、高校卒業後の明確なイメージが持てない学生が多いと考えられる。

●職業に関すること

<回答結果>

◆就職先を決める際に重要なこと…(保護者)休みがとりやすいが約7割	70.2%
…(高校生)興味のある仕事であるが約8割	76.4%
(高校卒業後)	
・大学や専門学校への進学希望者は約8割	75.0%
・就職希望者は約2割	15.3%
うち市内で働くことを希望者は約1割	7.4%

就職先を決める際に重要なことは、児童生徒の保護者では「休みがとりやすい」がもっとも多く、続いて「職場の雰囲気がよい」「安定している」などとなっている。

高校生では「自分が興味のある仕事」が最も多くなっている。高校卒業後の進路については、大学や専門学校への進学希望者は8割で、就職希望者は2割となった。また、就職希望者のうち、その半数が将来市内で働くことを希望している。

●市への愛着に関すること

<回答結果>

◆小美玉市に愛着を感じている…保護者は約4割	40.4%
…市民は約4割	42.6%
…高校生では約6割	58.1%

小美玉市に愛着を感じている割合は、児童生徒の保護者と18歳から39歳までの市民で、いずれも約4割となっている。

市内在住の高校生世代は6割程度となっており、大人と比べて、市に愛着を感じている割合が多い。

(2)小美玉市人口ビジョン検討における課題の整理

①総人口・人口構成の推移について

現状分析	<ul style="list-style-type: none">○老年人口はすでに 30%を超えており、今後も高齢化率の上昇が予想される。○老年人口が増加し、生産年齢人口、年少人口が減少する傾向にあるが、近い将来、老年人口の推移が横ばいになり、全世代で人口減少が加速することが考えられる。
課題	人口減少が進行する中、生産年齢人口の減少に伴う市税等の歳入不足により行政サービスの低下が懸念される。急激な高齢化による地域経済の縮小、生活環境の低下を防ぐため、合計特殊出生率の回復や、若者の流出の抑制を図っていく必要がある。また、誰もが生涯にわたり健康で安心して暮らせるよう、健康づくりや安全・安心なまちづくりに取り組むことが必要である。

②人口動態について

現状分析	<ul style="list-style-type: none">○社会増減は 2008 年以降徐々に増加し、2009 年には人口増減がプラスに転じているが、自然減が社会増を上回っていることにより、総人口は減少し続けている。○年齢別にみると、男性は 30 歳代の転出が顕著となっており、女性は 20～24 歳の転出が最も多い。○40 歳代以降は男女ともに転入・転出が少なくなっている。○石岡市、水戸市からの転入が多く、つくば市、土浦市への転出が多い傾向にある。
課題	自然減を抑制するため、若者が子どもを産み育てやすい環境づくりが必要である。将来に希望をもって安心して子育てできるよう、子育て支援を強化するとともに、子育てしやすい環境整備に取り組む必要がある。また、転出による社会減少の抑制するため、成長した子どもたちが大人になってからも、本市に定住し市内で就業してもらえるよう、住宅取得費補助等の経済的支援や魅力ある就労環境づくりが必要である。

③地域別の人口の推移について

現状分析	<p>○地区別の人口では、羽鳥地区のみが増加しており、それ以外の地区は減少が続いている。</p> <p>○将来的には、特に若年層の人口は羽鳥駅周辺の市街地、小川市街地、玉里市街地に集中することが予測される。</p>
課題	<p>将来的に人口規模が縮小していくことを想定した上で、持続可能な生活圏を維持していく必要がある。人口が集中する市街地と人口が減少するエリアのそれぞれのニーズに応じて、公共交通や福祉、医療などの充実を図る必要がある。</p>

④婚姻・出産・子育てについて

現状分析	<p>○婚姻件数については、2019年以降減少が続いており、2022年では過去最低となっている。</p> <p>○市の合計特殊出生率は、減少が続いているものの、国、県と比べて高い。</p> <p>○生涯未婚率は増加傾向が続いている。</p> <p>○アンケートでは若者の婚姻に対する希望・関心の低下が示されている。</p> <p>○既に本市で子育てをしている人は、本市での子育て、定住意向が高い。</p>
課題	<p>婚姻率と合計特殊出生率の上昇を目指す上で、若者の婚姻に対する希望や関心が低いことから、将来のライフイベントを自分事として考える機会の提供や、充実した子育てサービスの内容を周知し、子育てへの不安を取り除く必要がある。また、子育て世帯が安心して地域で子育てができるよう、地域と行政が一体となった環境づくりが必要である。将来、家族をつくることを希望する若者が、暮らしやすい環境を整備することが求められる。</p>

⑤産業について

現状分析	<p>○産業別人口を見ると、全国的な傾向と同様に、第一次産業、第二次産業の減少が続いている。特に近年では、第一次産業の減少率が大きい。</p> <p>○農業の就業者は、半数以上が60歳以上となっており、高齢化が著しい。今後、高齢世代の離職により更に担い手不足が懸念される。</p> <p>○人口減少に伴い、事業所や民間商業施設が減少することにより、地域経済の低迷、生活の利便性の低下が懸念される。</p> <p>○将来小美玉市で働くことを希望する高校生世代の割合が低い。</p>
課題	<p>小売業・飲食業などを維持・活性化するため、地域内消費、経済の好循環促進など、市民生活や経済活動を支える取組が必要となる。</p> <p>また、地域の強みを生かした産業を育成していくとともに、高齢化が進む産業において、担い手の確保など、地域産業の継続を図る取組が必要となる。</p> <p>就職にあたって、若い世代が小美玉市で働くことをイメージできるように、関係機関と連携し地元産業を周知するとともに、地元での就業につながる取組が必要である。</p>

⑤市への愛着について

現状分析	<p>○市民の本市への愛着は前回に比べて減少している。</p> <p>○大人世代に比べて高校生世代は、市への愛着が高い。</p>
課題	<p>仕事や子育てを通して、地域コミュニティのつながりを育み、本市に住んでよかったと思えるまちづくりが必要である。</p> <p>若い世代が未来の小美玉市で活躍するイメージを持ってもらえる場をつくっていくことが必要である。</p> <p>また、歴史や文化、産業などあらゆる地域特性の学習・体験を通して、地域への愛着を育む取組が必要である。</p>

(3) 目指すべき将来の方向

本市の人口における現状と課題および国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を踏まえ、本市の人口の将来を展望するにあたっては、次の基本的方向から目指すべき将来の方向性を掲げます。

○若い世代の結婚・出産・子育て希望の実現

少子高齢化の進行にともない自然減が増えることが予想される中で、人口を維持するためには、若者が自らの希望する時期に希望するあり方で結婚・出産・子育てが実現できる環境づくりに取り組んでいく必要があります。結婚、出産、子育て世代の暮らしの基盤を整え、出生数の増加と若い世代の移住定住促進を目指します。

○小美玉らしさを活かした魅力あふれる生活環境

本市は茨城空港を有し、鉄道・高速道路を使った都心へのアクセスのよい環境にあります。デジタル化が進んだ社会背景を踏まえ、都心でなくても望ましい暮らしが実現できることをPRしていく必要があります。交通、物流、福祉、医療などのネットワークの充実を図り、若者から高齢者まで、誰もが自分らしくいきいきと活躍できる地域社会を目指します。

○安定した雇用の創出と市内就業人口の増加

本市の産業は農業や製造・加工業が中心で、ヨーグルトなどのブランド品づくりにも取り組んでいます。さらに地域産品を活用しながら地域雇用の拡大と地域産業の活性化に発展させていくことが求められます。企業誘致と雇用促進、市内企業への支援と交流の推進を図るとともに、新たな雇用の創出、起業支援を図るなど、若者のライフスタイルに合った働きやすい環境をつくり、市民が安心して暮らし続けられるまちを目指します。

○市民が住み続けたいと感じる暮らしの創出

市民の郷土意識やコミュニティへの愛着形成を図ることにより、地元で暮らしたい、住み続けたい若者を育成し、進学や就職で一時的に市外に転出しても、就職や転職、結婚などライフステージの転換期に本市に戻りたくなるような取り組みが必要です。恵まれた自然環境と住環境の調和、産業、文化など、小美玉市の暮らしを構成する要素の質の高さをPRし、市民が誇りを持って暮らせるまちを目指します。

(4)人口ビジョン

本市が目指す人口ビジョン(人口の将来展望)を以下に示します。

①人口ビジョンの対象期間

人口ビジョンの対象期間は、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン(令和元年度改訂版)」と同様の 2060 年を目標期間とします。

②合計特殊出生率の考え方

- ・合計特殊出生率の設定にあたっては、社人研による「出生動向基本調査」における希望子ども数から、合計特殊出生率を設定します。

アンケート調査結果		合計特殊出生率	
現実的に子育て可能な子どもの人数(平均値) (市アンケート調査※)	約 2.1 人	1.40	調査時点の合計特殊出生率 (ベース推定値(2018-2022年))
理想とする子どもの人数 (平均値) (市アンケート調査※)	約 2.6 人	1.75	現実的に子育て可能な子どもの人数との比率から合計特殊出生率を算出

出展:「第3期 小美玉市子ども・子育て支援事業計画」策定時の
アンケート調査(2024年3月)

社人研による「出生動向基本調査」では、希望子ども数は年々減少しており、2021年調査では約 1.8 人になっています。国では結婚・出産・子育てがしやすい地域づくり、若い女性を含め働きやすい環境づくりを進め、結婚・出産・子育ての希望をかなえることを目指しています。

本市の調査では、現実的に子育て可能な子どもの人数は約 2.1 人、理想とする子どもの人数が約 2.6 人となっています。国における取組と連携し、本市の子育て支援、ワークライフバランスの促進を図ることにより、若者世代が希望の子ども数を実現した場合、合計特殊出生率の実績から 1.75 程度まで上昇することが考えられます。

③社会移動率の考え方

- ・社人研の人口推計に用いられた値をもとに、これまでの検証データ、アンケート調査データから純移動率を設定します。

ア.子育て環境の充実、周知による移住・定住促進

アンケート調査による定住意向	市民（無作為抽出）	市内小中学校に通う児童・生徒の保護者
小美玉市で子育てしていきたい	28.4%	58.2%
これからも小美玉市に住み続けたい	56.7%	79.3%
市外に引っ越したい・分らない	42.6%	22.6%

▼期待される効果

実際に子育てをしてみると、「小美玉市で子育てをしていきたい」、「住み続けたい」という意向がともに強くなっていることから、安心して子育てできる環境の充実・周知を図ることにより、子育て世代の定住意向を高める効果が期待されます。

イ.日常生活の利便性の向上、教育・医療サービスの充実による定住促進

アンケート調査による転出意向の理由	市民（無作為抽出）	市内小中学校に通う児童・生徒の保護者
日常生活が不便	58.9%（1位）	73.6%（1位）
子どもの教育	7.1%（8位）	40.3%（2位）
医療サービスの関係	16.1%（3位）	37.5%（3位）

▼期待される効果

市外への転出を希望する人が理由として挙げている日常生活の不便さを解消することが必要です。デジタル化により、都心でなくても望ましい暮らしが実現できることをPRしていくことで、市民の快適な暮らしをつくとともに、市外への転出を抑制する効果が期待されます。

また、子育て世代は、転出入にあたって子どもの教育環境、医療サービスの充実を重視しており、教育・医療の質の向上を図ることで、子育て世代の転出抑制だけでなく、転入促進にも効果が期待されます。

ウ.安定した雇用と働きやすい環境の充実

アンケート調査による就職先を決める際に重視すること	市民（無作為抽出）	高校生世代
1位	職場の雰囲気が良い	自分の興味がある
2位	休みがとりやすい	安定している
3位	安定している	職場の雰囲気が良い
4位	自分の興味がある	給料が高い
5位	給料が高い	休みがとりやすい

アンケート調査による将来の希望する勤務地	高校生世代（市内在住）
小美玉市内で働きたい	7.4%
小美玉市外で働きたい	29.7%
分からない	62.8%

▼期待される効果

企業誘致、地元企業の活性化、起業支援などにより、働き方の選択肢が増えることで、若い世代が興味関心のある分野で働ける環境をつくり、小美玉市での定住を促進するとともに、市外で働きたい若い世代の流出を抑制する効果が期待できます。

また、女性や高齢者など、誰もが働きやすい職場環境をつくり、身近な大人がいきいきと働くことで、将来のイメージが明確でない若い世代へも、小美玉市内での就労を促進することが期待されます。

エ.小美玉市への愛着の醸成

アンケート調査による市への愛着	市民（無作為抽出）	高校生世代（市内在住）
愛着を持っている	42.6%（前回 56.0%）	58.1%（前回 45.6%）
どちらともいえない	30.9%（前回 28.5%）	30.4%（前回 26.2%）
特に愛着はない	22.2%（前回 10.7%）	9.5%（前回 13.6%）

▼期待される効果

アンケート調査では前回に比べて市への愛着を感じる市民が減少しています。歴史・文化・産業・教育・市民協働などの幅広い分野において市民の主体的な活動を支援し相互のつながりを育んでいく事で、郷土意識やコミュニティへの愛着形成を図っていく必要があります。

④社会移動数の考え方

- ・茨城空港テクノパーク等への企業誘致による雇用の確保・就業者の転入を想定し、移動数を設定します。

茨城空港テクノパークの状況

稼働済み面積	約 5.6ha	
面積あたりの従業員数	約 20 人/ha	分譲済の 3 社から算出
分譲中面積	29.5ha	
想定雇用数	590 人	面積あたり従業員数×分譲中面積



新たな企業誘致により見込まれる効果

面積あたりの従業員数	約 20 人/ha	
想定分譲面積	約 30ha	テクノパークと同程度を想定
想定雇用数	600 人	面積あたり従業員数×想定分譲面積



想定雇用数合計	1,190 人	
雇用者のうち小美玉市への移住者数	595 人	想定雇用数の 50%
1世帯当たり人員数(茨城県)	2.37 人	
想定移住者数	1,410 人	雇用者のうち小美玉市への移住者数×1世帯当たり人員数(茨城県)

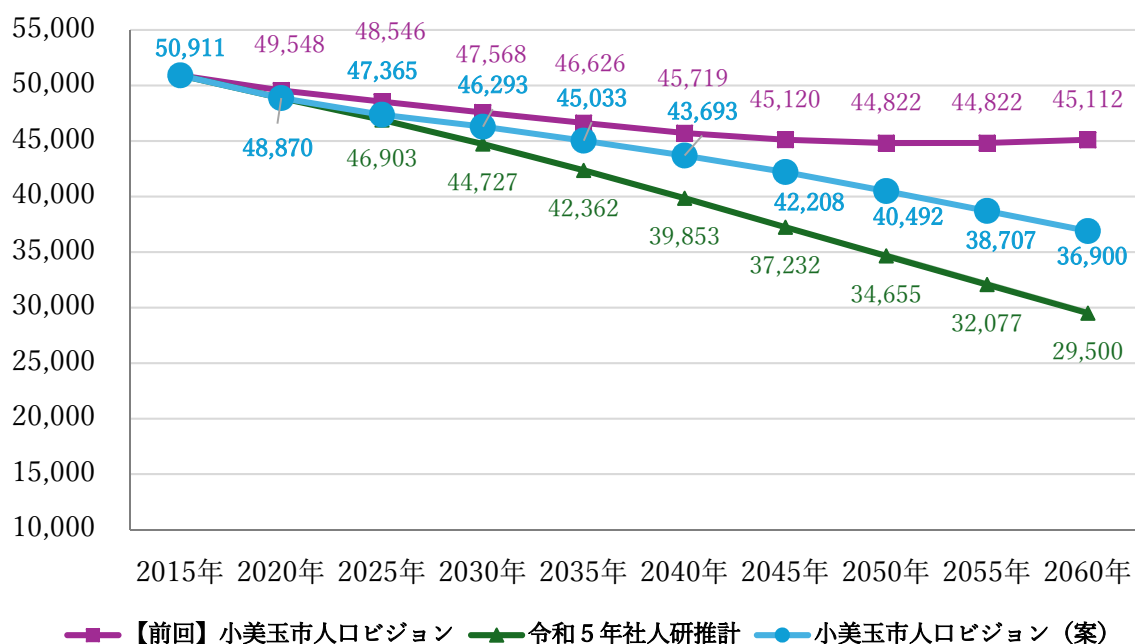


茨城空港テクノパーク等への企業誘致が進み、雇用が増加することで生産年齢人口の移住が増加することが想定されます。面積あたりの従業員数から、今後の雇用数を想定し、2025年～2045年の間に1,410人の転入数を設定します。

⑤小美玉市人口ビジョン

合計特殊出生率、社会移動率の考え方にに基づき、本市の将来の人口の見通しを以下に示します。合計特殊出生率および社会移動率の上昇を促進する取組の実施により、目標年次における人口の確保を目指します。

2040年（令和22年）将来人口	約43,700人
2060年（令和42年）将来人口	約36,900人



合計特殊出生率の考え方	社会移動率の考え方
1.40 から段階的に 1.75 に上昇する 2025年：1.40 2030年～2040年：1.575 2045年～2060年：1.750	<ul style="list-style-type: none"> ・30歳代までの転出を20%抑制 ・20歳代の女性の移動率を男性と同様の移動率に設定 ・移動数を設定（2045年までに1,410人）

第 3 期小美玉市まち・ひと・しごと創生総合戦略
ダイヤモンドシティ・プロジェクト

計画体系と取組内容（案）

目次

1. はじめに.....	
(1)小美玉市まち・ひと・しごと創生総合戦略改定の背景と趣旨.....	
(2)計画の位置づけ.....	
(3)計画の期間.....	
2. 改定にあたっての視点.....	第1回会議
(1)国が示すデジタル田園都市国家構想基本方針.....	
1)地方版総合戦略の全体的な構成.....	
2)目標と基本的方向.....	
(2)デジタル田園都市国家構想における Well-being の考え方.....	
(3)本市の関連計画.....	
1)小美玉市第2次総合計画.....	
2)小美玉市デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進計画.....	
(4)第2期小美玉市総合戦略達成状況.....	第4回会議
3. 本市のまち・ひと・しごと創生総合戦略ダイヤモンドシティ・プロジェクト改定方針.....	
(1)まち・ひと・しごと創生総合戦略 ダイヤモンドシティ・プロジェクト改定方針.....	
1)計画の名称.....	
2)総合戦略の役割.....	第2回会議
3)総合戦略の地域ビジョン.....	
4)総合戦略の改定の視点.....	
(2)小美玉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 ダイヤモンドシティ・プロジェクトの構成.....	第3回会議
(3)計画の構成.....	
4. 小美玉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 ダイヤモンドシティ・プロジェクト.....	1
5. 計画の推進体制.....	
6. 計画のマネジメント.....	
■資料編.....	

4. 小美玉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 ダイヤモンドシティ・プロジェクト体系

政策分野1 「結婚・妊娠・出産・子育て」の希望をかなえるまちー おみたまっ子応援パッケージー

結婚から妊娠・出産・子育てまでの一体的な支援を強化し、本市の次代を担う子どもたちの未来を創る

基本方向	具体的施策	
出会いから子育てまでを一体的に支援する	施策 101	新たな出会いの創出
	施策 102	安心して子育てできる環境の充実
自ら未来を切り拓く人を育てる	施策 103	個性や能力を最大限に高める教育の推進
	施策 104	子どもの将来展望の形成支援

政策分野2 「地域の魅力」が輝くまち

本市の地域資源を活用した賑わいや交流を創出し、誰もが住み続けたいくなる暮らしを創る

基本方向	具体的施策	
地域と観光の賑わいを創出する	施策 201	持続可能な地域づくりの推進
	施策 202	交流エリアの活性化促進(空・陸・水)
居心地がよい暮らしを創出する	施策 203	生き生きと健やかに暮らせる環境の充実
	施策 204	安全安心な地域づくりの推進

政策分野3 「働く」を創造するまち

若者世代や子育て世代が地元で働き続ける、魅力ある就業環境を創る

基本方向	具体的施策	
魅力ある仕事と雇用を創出する	施策 301	企業誘致の促進と雇用の創出
	施策 302	地域経済の活性化の促進
市民の「働く」を支援する	施策 303	地域産業の見える化とマッチング支援
	施策 304	地域の未来を支える人材の育成支援

政策分野4 「人の流れ」を生み出すまち

市民に愛され、若者に選ばれ続ける小美玉市を形成し、市内への人の流れを創る

基本方向	具体的施策	
「小美玉での暮らし」で未来を創出する	施策 401	移住・定住の促進
	施策 402	若者のふるさと回帰の促進
あらたな人とのつながりを創出する	施策 403	関係人口・交流人口の拡大
	施策 404	シティプロモーションの推進

【各政策分野を横断化・加速化】

デジタル化により各施策を効果的に推進し、ひと・まち・しごとの好循環を生み出す

基本方向	3つの施策	
デジタルの力で心豊かな暮らしをつくる	施策 D-1	市民サービスのデジタル化
	施策 D-2	行政のデジタル化
	施策 D-3	DX 推進に向けた環境整備

**政策分野1 「結婚・妊娠・出産・子育て」の希望をかなえるまち
ー おみたまっ子応援パッケージ ー**

結婚・妊娠・出産・子育ての不安や経済的負担を軽減することにより、すべての若者が未来に希望をもって安心して生活ができるまちづくりを目指します。

一人一人が思い描く将来像をかなえるため、出会いから子育てまでのライフステージに応じて、切れ目なくサポートをする体制の構築と取組の充実を図ります。また、自らの明日を拓く人づくりを進めることで、本市の教育の魅力を高める取組を推進します。

基本目標	基準値	目標値
合計特殊出生率		
年少人口(0歳～14歳)		

基本方向1 出会いから子育てまでを一体的に支援する

施策 101 新たな出会いの創出

結婚や出産を希望しない若者が増えている要因として、若い世代の出会いの場が少ないことや妊娠・出産の負担感が強く認識されていることが考えられます。

若い世代の様々な出会いの場を創出するとともに、出産を希望する方が子どもとの出会いを温かく迎えらる環境づくりに取り組みます。

<関連する取組>

- デジタルを活用した出会いの創出
- 参加型・体験イベントを通じた出会いの創出
- 妊娠を望んでいる方への支援
- 受診・検診や家事支援サービスへの助成などによる妊婦の負担軽減

<業績評価指標 (KPI) > (仮)

指標名	基準値	目標値
結婚推進事業におけるマッチング件数		
不妊治療費補助金申請件数		
妊産婦健診受診率		

施策 102 安心して子育てできる環境の充実

子育て世帯が安心して子育てができる環境をつくるには、地域が子育て家庭を歓迎してくれていると実感できることが重要です。

いつでも・どこでも様々な子育て情報が得られ、適切な相談支援が受けられるよう、子ども・子育て支援の DX を推進するとともに、地域で子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりを進めます。また、子育てに対する不安や経済的負担を軽減し、安心して子育てできるよう、おみたまっ子の成長を支援します。

<関連する取組>

- 子どもの成長と保護者をサポートする相談支援体制の強化
- おみたま子育てアプリの充実
- 子育て支援に関する各種申請手続きのオンライン化
- 子どもの遊び場の整備
- 子どもの居場所づくり
- 子育て世帯の経済的負担軽減

<業績評価指標 (KPI) > (仮)

指標名	基準値	目標値
子育てアプリダウンロード数		
子どもの遊び場の新規設置数		
産後の指導・ケアに満足している人の割合		

基本方向2 自ら未来を切り拓く人を育てる

施策 103 個性や能力を最大限に高める教育の推進

子どもたちが学びを通して自らの可能性を広げ、次代を担う人材に育っていくことは、本市の持続可能性を高める上で、大切な要素であり市民の願いです。グローバル化やデジタル化が進展する中で、子どもたちには、社会の目まぐるしい変化に対応する力が求められています。

変革する社会に対応できるよう、国際理解を深める外国語によるコミュニケーション能力を育成するとともに、デジタル技術を活用した ICT 教育の推進により、子どもたち一人一人の可能性を最大限に高めます。

また、地域と学校が一体となって、本市の「未来の宝」である子どもたちを育てる環境づくりを推進します。

<関連する取組>

- グローバル化に対応した外国語教育の推進
- ICT 教育の推進
- 情報モラル教育の推進
- 快適な学習環境の整備
- 学校を拠点とした「コミュニティスクール」、「地域学校協働活動」の充実

<業績評価指標 (KPI) > (仮)

指標名	基準値	目標値
中3時における CEFR A1 レベル(英検 3 級相当)以上の英語力を有する生徒の割合		
茨城県学力診断のためのテスト平均正答率(小学生・中学生)		
地域学校協働活動協力者数		

施策 104 子どもの将来展望の形成支援

本市の地域資源を大切にすること意識の醸成や、地域の伝統・文化を次の世代に継承するには、子どもたちのシビックプライドの形成が重要です。また、自らの可能性を広げ、将来展望を早期に描くことは、今後訪れる様々なライフイベントに柔軟に対応できる能力を培い、持続可能な地域社会の形成につながっていくものと考えられます。

子どもたち一人一人がより良い進路を選択し、自ら描いた夢を実現できるよう、キャリア教育の推進や将来に向けたライフデザインを支援するとともに、魅力ある地域資源を活用した様々な学習や体験活動に取り組みます。

<関連する取組>

- 将来に向けたライフデザインの支援
- 憧れを未来の目標にかえるための支援
- 本市の産業に触れる多様な学習・体験活動
- 主権者意識の醸成

<業績評価指標 (KPI) > (仮)

指標名	基準値	目標値
自分自身が将来、家族を持つことを楽しみと思う割合(ライフデザインセミナーアンケート)		
職場体験協力事業者数		

政策分野2「地域の魅力」が輝くまち

少子高齢化による人口減少が進行する中、誰もが住みやすく、住み続けたい魅力ある地域づくりが重要です。地域の魅力を高め、本市の地域資源を活用した賑わいを創出するため、市内外の交流を促進します。また、誰一人取り残すことなく、健康でいきいきと暮らし続けられるよう、地域とのつながりを育み、ウェルビーイングの実現を目指します。

基本目標	基準値	目標値
本市に住み続けたい割合(市民アンケートより)		
観光入込客数		

基本方向1 地域と観光の賑わいを創出する

施策 201 持続可能な地域づくりの推進

持続可能な地域づくりにおいては、そこに暮らす多様な人たちの協働と主体的な活動が重要になってきます。

市民が様々な交流を通じて、地域でつながり・かかわり・協力し合える環境づくりを進めるため、地域コミュニティを活性化するとともに、人と人がつながるネットワークづくりを推進します。

また、市民同士が互いに学びあい、成長し、地域で豊かな暮らしが送れるよう、文化・芸術・スポーツを楽しむ環境づくりに取り組みます。

<関連する取組>

- 地域コミュニティの活性化を図るための人材・組織づくり
- 若者が参加する地域づくり・魅力発信
- 市民がやりたいことに主体的に取り組む文化・芸術の創造、発信
- スポーツが楽しめる環境の充実

<業績評価指標 (KPI) > (仮)

指標名	基準値	目標値
まちづくり組織認定数		
自主事業における来館者の満足度		

施策 202 交流エリアの活性化促進(空・陸・水)

本市では、茨城空港を中心とした空の交流エリア、JR羽鳥駅を中心とした陸の交流エリア、霞ヶ浦沿岸を含む水の交流エリアを位置付けています。

「ひと」と「地域」が賑わい、活力が好循環するまちづくりを目指すため、交流エリアや地域の特性を最大限に活かした環境整備を進めるとともに、地域資源を活用したイベントの開催や、市内外に向けた効果的な情報発信により、交流人口及び定住人口の拡大を図ります。

<関連する取組>

- 羽鳥駅前、空港前の新交流拠点の整備
- 小河城跡地周辺地区の整備
- サイクルツーリズムの推進
- 地域資源を活用したイベントの開催
- 国内外の観光客の誘致
- 茨城空港周辺での宿泊施設の誘致

<業績評価指標 (KPI) > (仮)

指標名	基準値	目標値
交流イベント来場者数(花火大会、マルシェ、サイクリングイベント)		
観光口コミ数		
茨城空港周辺の宿泊施設の客室数		

基本方向2 居心地がよい暮らしを創出する

施策 203 生き生きと健やかに暮らせる環境の充実

すべての市民が健やかで心豊かに暮らしていくためには、生活基盤や生活支援の強化とともに、一人一人の健康づくりが重要です。

高齢化の進行により、運転免許証を返納する高齢者が増えることから、交通弱者のニーズに対応した公共交通システムを構築するとともに、市民が安心して必要な医療が受けられる体制づくりを推進します。また、住み慣れた地域で自分らしい暮らしが送れるよう、高齢者や障がい者のニーズに対応した福祉サービスを提供するとともに、一人一人の健康寿命を延伸する取組みを推進します。

<関連する取組>

- 地域公共交通の充実
- 健康寿命の延伸を目指した健康維持への支援
- 生涯にわたっていきいきと暮らせる生活支援
- 地域医療体制の充実

<業績評価指標 (KPI) > (仮)

指標名	基準値	目標値
コミュニティバス1日平均利用者数		
特定健康診査の受診率		

施策 204 安全安心な地域づくりの推進

誰もが安全安心に暮らしていくには、近所や地域の方々と支え合う地域づくりが大切です。自然災害が激甚化・頻発化し、人口減少・少子高齢化が進行する中、地域の担い手不足や地域コミュニティの希薄化、地域力の低下が懸念されています。

あらゆる事態に備えた危機管理・防災対策をはじめ、消防・救急体制を強化するとともに、地域の防災力・防犯力を育成することにより、地域全体で支えあう安全で安心な地域づくりを推進します。

<関連する取組>

- 消防・救急体制の充実
- 防災対策の充実
- 交通安全・防犯対策の充実

<業績評価指標 (KPI) > (仮)

指標名	基準値	目標値
機能別消防団員数		
救急救命士数		
防災士資格取得者数		

政策分野3 「働く」を創造するまち

技術の発達や社会構造の変化により、近年、働き方の多様化が進み、職種によってはどんな場所でも働くことができる時代へと変化しています。自分にあった働き方が選べ、若い世代や子育て世代が地元で働き続けられるよう、魅力ある就業環境づくりを進めます。

基本目標	基準値	目標値
市内総生産		
市内就業者数		

基本方向1 魅力ある仕事と雇用を創出する

施策 301 企業誘致の促進と雇用の創出

本市で生まれ育った若い世代や子育て世代が、それぞれの生活スタイルにあった就業環境づくりを進めるため、積極的な企業誘致を推進します。また、地元での創業支援を推進するため、創業相談やセミナーの開催、経済的支援を行うなど、準備段階から創業活動を応援します。

<関連する取組>

- 起業・スタートアップの支援
- テクノパークへの企業誘致
- 新たな企業の誘致
- サテライトオフィス等の誘致
- 産官学連携による地元雇用の創出

<業績評価指標 (KPI) > (仮)

指標名	基準値	目標値
新規企業の立地件数及び拡張企業数		
創業支援制度の活用者数		

施策 302 地域経済の活性化の促進

地域経済を活性化させるには、本市の地域産業や豊かな地域資源を市内外にPRするとともに、様々な産業活動を促進することが重要です。本市で暮らし、就業することで得られる豊かさを実感できる地域づくりを目指します。

本市の基幹産業の一つである農業をさらに活性化させるため、農畜作物のブランド認定品の販売拡大支援や先端技術の導入支援などに取り組むとともに、産業活性化コーディネーターによる中小企業支援を推進します。

<関連する取組>

- 農畜産物のブランド化、特産品の販売拡大
- スマート農業の導入支援
- 担い手の育成支援
- 産業活性化コーディネーターによる企業支援
- 魅力あるふるさと納税返礼品の発掘・創出

<業績評価指標（KPI）>（仮）

指標名	基準値	目標値
ふるさと納税協力事業者数		
小美玉ブランド認定品数		
新規就農者数		

基本方向2 市民の「働く」を支援する

施策 303 地域産業の見える化とマッチング支援

本市に住み続けてもらうためには、自分に合った働き方ができる環境があることが重要です。様々な家族構成やライフスタイルに影響されることなく、自分らしく安心して働き続けられるまちを目指します。

仕事と子育ての両立ができるよう、働きやすい職場環境づくりを推進します。

また、市内企業や農家などと協力・連携し、企業等の事業活動の可視化を進め、就活者をはじめ、幅広い年齢層に魅力ある就業情報を発信しながら、地元での就労につなげます。

<関連する取組>

- ライフスタイルにあった若者・子育て世帯が働きやすい環境整備
- 子ども・学生・就活者に向けた市内企業の情報発信
- 児童生徒の職場見学・職場体験、学生の仕事体験の充実
- 高校生・大学生を対象とした就職説明会の開催

<業績評価指標 (KPI) > (仮)

指標名	基準値	目標値
くるみん認定企業数		
企業説明会参加者数		

施策 304 地域の未来を支える人材の育成支援

少子高齢化が進行し、多くの職種において、優秀な人材の確保が困難を極めています。

物理的な人材不足などに対応し、地域の未来を支える人材を育成するため、官民が連携しながら、中小企業のデジタル化・DXを推進するとともに、一人一人が価値を生み出す能力を高められるよう、リスクリング[※]・リカレント教育[※]を推進します。

また、持続可能な地域づくりを推進するため、次世代を担うまちづくりリーダーの育成を推進します。

<関連する取組>

- 中小企業のデジタル化・DXの推進支援
- 地域人材のリスクリング・リカレント教育の推進
- 次世代まちづくりリーダーの育成

<業績評価指標（KPI）>（仮）

指標名	基準値	目標値
まちづくり人材育成事業参加者数		
市民講座の開設講座数		

リスクリング：企業が従業員に対して新しいスキル、技術を身に付けさせることで、新たな価値、サービスの創出や生産性の向上、ひいては従業員の市場価値の向上につなげること。

リカレント教育：学校教育から離れた後も、必要なタイミングで再び教育を受け、就労と教育のサイクルを繰り返すこと。仕事上で必要とされる能力の向上を目指す。

政策分野 4 「人の流れ」を生み出すまち

人の流れを生み出すには、地域特性を活かした豊かな暮らしと、それをより多くの人に伝える情報発信が必要です。そして何より、市民がまちに愛着と誇りを持って笑顔で暮らしていることが欠かせない要素です。

移住・定住の環境を整えるとともに、多様なメディアを活用した情報発信により人と人のつながりをつくり、様々な形で地域づくりを支えてくれる人材の創出・拡大を目指します。

基本目標	現況値	目標値
生産年齢人口純移動数		
本市に愛着を持っている割合(市民アンケートより)		

基本方向1 「小美玉での暮らし」で未来を創出する

施策 401 移住・定住の促進

コロナ禍によるテレワークの普及や働き方の意識改革が進み、都心以外への居住や二地域居住が、住居の選択肢として考えられるようになりました。

本市への移住を考える方に、「住みたい」と思える住環境を提供できるよう、小美玉での暮らしに関する情報発信や相談支援を強化するとともに、住宅取得の補助支援などにより、移住・定住の促進に取り組めます。

<関連する取組>

- 若者世帯、移住者世帯に向けた住宅取得の補助
- 空き家活用の補助支援、相談支援の強化
- 小美玉での暮らしを体感する移住体験、移住相談体制の充実
- 二地域居住希望者への情報発信
- 地域おこし協力隊の活用

<業績評価指標 (KPI) > (仮)

指標名	基準値	目標値
住宅取得の補助申請数		
空き家の有効活用件数		

施策 402 若者のふるさと回帰の促進

大学進学や就職で本市を離れた若者や、地方に憧れをもつ若者が、本市に移り住むきっかけをつくることが重要です。

本市に移住し、地元で就職を希望する若者を後押しするため、就職活動に要する交通費の支援や、地元企業に就職した新社会人に対する奨学金返還の支援を行うなど、ふるさとである本市に帰って、安心して暮らし続けられるよう、若者の移住・就職支援を推進します。

<関連する取組>

- 地元企業で就職する新社会人への奨学金返還支援
- シビックプライドの醸成
- 東京圏からの移住・就職を支援

<業績評価指標 (KPI) > (仮)

指標名	基準値	目標値
奨学金返還支援制度活用者数		
就職活動の経済的支援件数		

基本方向 2 あらたな人とのつながりを創出する

施策 403 関係人口・交流人口の拡大

関係人口や交流人口を増やすことは、本市の賑わいや持続可能な発展に重要です。

本市が有する魅力ある地域資源や観光スポットを情報発信し、国内外から市内に訪れる観光客や、ふるさと納税制度を通して本市を応援してくれる市外寄附者を増やすとともに、若者が参画しやすい各種イベントを開催するなど、関係人口・交流人口の拡大を図ります。

また、文化的理解を深め、経済的な発展や社会的繋がりを強化するため、国際交流・国内交流を推進します。

<関連する取組>

- 若者が参画するイベントの充実
- 姉妹都市・友好都市との交流促進
- ふるさと納税返礼品による魅力発信

<業績評価指標（KPI）>（仮）

指標名	基準値	目標値
ふるさと寄附金受入額		
市民と協働で運営する実行委員会数		

施策 404 シティプロモーションの推進

シティプロモーションは、市民や市民団体、市内企業のみならず、市出身をはじめとした市外で暮らす方も市を応援する応援者になってもらうことが大切です。また、市の応援者を増やすことは、地域の持続的な発展に貢献します。

市の文化・歴史・産業・自然環境といった地域資源を可視化し活用できる状態にすることで、多様な主体によってより広く、効果的な発信を促し、行動・応援する人を増やすプロモーション活動に取り組みます。

<関連する取組>

- ふるさと納税返礼品による魅力発信
- 広報や SNS 等による効果的な情報発信

<業績評価指標 (KPI) > (仮)

指標名	基準値	目標値
プレスリリースによる掲載率		
シティプロモーション活動における参画・参加者の推奨・参加・感謝の NPS		

【各政策分野を加速化するための横断的テーマ】

デジタル化により各施策を効果的に推進

結婚・出産・子育て支援、地域の魅力向上、雇用の創出、人の流れの創出による地方創生の取組を、デジタルの力を活用して加速化・深化させるため、まちの様々な場面でデジタル実装に取り組みます。人とモノの両面から、デジタル時代のインフラを整えていくことが、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少や税収の減少などを乗り越えるチャンスと捉え、部門横断的な取組を進めます。

基本方向1 デジタルの力で心豊かな暮らしをつくる

施策 D-1 市民サービスのデジタル化

子どもから高齢者まで、誰もが幅広い分野で DX の恩恵を享受できる環境の整備など、様々な手続きやサービスにおいて、積極的にオンライン化・デジタル化を進め、地方創生の取組効果や住民の利便性、行政サービスのさらなる向上を進めます。

<関連する取組>

- フロントヤード改革^{*}による市民サービスの向上
- 公共施設の DX 推進による利便性の向上と利用促進
- 保育業務の ICT 化による業務の効率化と人材不足の改善
- デジタル技術を活用した地域コミュニティの活性化
- 公金収納における eLTAX^{*}の活用

フロントヤード改革：住民と行政との接点（フロントヤード）の改革を進めること。具体的にはオンライン申請の推進・強化や多様な窓口の実現、マイナンバーカードの利活用の推進などを通して、住民視点に立った創意工夫による行政サービスの充実を図ること。

eLTAX：地方税ポータルシステムの呼称で、地方税における手続きを、インターネットを利用して電子的に行うシステム。

施策 D-2 行政のデジタル化

国においては、ICT等の新技術や官民各種のデータを有効に活用し、将来にわたってサービスや生活の質を高めていくスマートシティの実現を目指しています。国が進めるデジタル基盤の整備のもと、本市の実態に適したサービスを拡充していくことが必要です。持続可能な行財政運営を行うため、業務改革（BPR）の徹底、さらには組織体制を含めて抜本的に見直し、デジタル技術を積極的に活用し業務の効率化を進めます。

<関連する取組>

- デジタル化による行政業務の効率化
- 自治体情報システムの標準化・共通化によるデジタル基盤の構築
- AI・RPAの利用推進
- ペーパーレス化の推進
- デジタル原則を踏まえた規制の点検・見直し

施策 D-3 DX 推進に向けた環境整備

高齢者や障がい者を含むすべての市民がデジタル化されたサービスを受けることができ初めて、利便性・効率性の高いデジタル社会を形成することができます。行政職員のデジタル人材の確保・育成や、デジタルデバイド対策など、DX推進に向けた環境整備を進めます。行政の役割として市民生活にデジタルの恩恵を届けること目指し、市民のニーズを把握しきめ細かな支援策を展開します。

また、様々な分野で効果的にデータを共有・活用していくためのデータの連携基盤の構築が重要になってきます。マイナンバーカードなどを活用しながら官民の連携体制を確立し、市民生活、地域社会、産業活動、企業活動への様々な展開を図ります。

<関連する取組>

- 市民・地域のデジタル力の向上
- デジタル人材の確保・育成
- セキュリティ対策の徹底
- デジタルデバイド^{*}対策
- オープンデータ・GISの推進

デジタルデバイド：インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差のこと。